

タブレット活用レシピ集



特別支援版

特別支援 自立活動	単元（活動名）	パズルで遊ぼう！	
	タブレット端末 活用の形態	教師が活用	

- **目的**
 - ・ タブレットの使い方に慣れるために、PC画面をよく見ながらペンを動かす練習をする。
- **利用する機能等**
 - ・ ジャストスマイルクラス〈デジタルノート〉
 - ・ カメラ、カメラフォルダ、大型テレビ、HDMIケーブル
- **活用の流れ**

- ①カプラブロックで各自パズルを作らせる。
- ②カメラで各自できあがったパズルを撮る。
- ③ジャストスマイルのデジタルノートに、カメラで撮ったパズルを貼り付け、画面の大きさに拡大する。
- ④画面上で好きな色のペンを使ってパズルをさせる。（一台に2人）
- ⑤HDMIケーブルで大型テレビにつなげて、2人でやっているパズルをみんなで共有し楽しむ。

①ブロックでパズルを作る。



④友達のパズルをタブレットで楽しむ。



⑤大型テレビに映してみんなで楽しむ。



● **教師の働き掛けや児童の様子**

★たまたま子どもたちがブロックで自由に遊ぶ中でパズルを作るという活動に熱中したことからこの活動に発展した。ブロックは一度作っても必ずすぐに壊さなくてはいけないので、このように完成した作品を写真で撮り保存したらいつでも再生でき、その画像をデジタルノートに貼り付ければ、様々な色のペンを使って線を書きこみパズルを楽しむことができた。

● **本レシピのワンポイントアドバイス**

学習の幅が広がるアイテム〈デジタルノート〉

日々の生活の中で様々なことをカメラで撮ってデジタルノートに貼り付けてしまえば、そこにいろいろなことが書きこむことができ便利である。また、書きこみをいれたまま保存しておけば貴重なファイルもできあがる。デジタルノートは使い方によっては学習の幅が広がるアイテムである。合理的配慮の一つとしても今後利用していけるだろう。

★ **実践した感想**

通級指導 自立活動	単元（活動名）	小集団学習での発表を意識した「言語指導・文字指導・発音指導」	
	タブレット端末 活用の形態	グループ1台	

●目的 ・ 個別の通級指導の時間で作成した問題文を小集団学習の場で発表する。

●利用する機能等

- ・ パワーポイントviewer
- ・ 無線LANアクセスポイント(SX-ND-4350WANPlus)
- ・ yahooキッズ(調べ学習時)

●活用の流れ

- ①小集団学習で「スリーヒントゲーム」のコーナーがあることを児童に伝え、その日に向けてスリーヒントの問題文を作る活動（作文用紙に書く）を行った。文を作る活動を行いながら「言葉の指導」「文字指導」、読む時の「発音指導」も行った。
- ②今年度は1年生が2名入級したので、1年生でもすぐ分かるような簡単な文を作るよう、ヒント3から考えた。ヒント1は「難問」を意識させた。児童によっては、タブレットパソコンを用いて、yahooキッズで調べ学習も行った。「緑の食品群にあります。」「リコピンが豊富です。」など、児童が知らない言葉の学習をしながら、知識を広げる活動にもなった。
- ③小集団学習当日は、出題児童がタブレットPCを持ち、口元が見えるように口を大きく開けてはっきり話すことを心掛けさせた。他の児童は出題児童を見ても、Wi-Fi経由のTV画面を見ても、視覚に頼らず聴覚活用のみでも良いことにした。
- ④絵カードを床に撒くと、頭と頭がぶつかった時に、補聴器や人工内耳の破損が考えられるので、厚いマットの上に敷き詰めた。
- ⑤答えが分かったら、その絵カードを拾い、出題児童に見せ、出題児童は、「違います」「正解です」を言うようにさせた。



●教師の働き掛けや児童の様子

出題児童を見るよりも、テレビ画面に映し出される文字を見た方が早いと考える児童がいることを想定して、教師の方でパワーポイントには意図的に漢字を多く取り入れた。習っていない漢字も使われているので、事前指導の時間で漢字の読みの指導、発音に気をつけて読む練習を行った。

●本レシピのワンポイントアドバイス

本機能を使うことで良かったところは、データ保存しているのでも、当日参加できなかった児童にも、通常の通級指導の時間に、小集団学習と同じような場面を再現して楽しむことができる場所である。反省点は、パワーポイントを使って発表する時に、画面を進めすぎて答えが出てしまう場面があったので、タップの力加減や「戻る」の操作の仕方等の事前指導が必要である。

特別支援 国語科	単元（活動名）	語いを増やす	
	タブレット端末 活用の形態	教師が活用	

●目的 ・ 児童が興味を持った言葉，物の写真や動画を見せて語いを増やす。

●利用する機能等
 ・ インターネット画像検索，動画検索
 ・

●活用の流れ

- ・ 読書，漢字テスト，新聞学習で出てきた
- ・ 気になる物，なんだろうと思った物
- ・ これって何
- ・ ネット検索で画像や動画で見る。

例：

- ・ 干し柿の記事を読む。
- ・ 干し柿ってどんなもの？
- ・ どんな物か調べてみよう
- ・ 画像を見よう。
- （発展）
- ・ 作り方を検索して実際に作ってみる。

●教師の働き掛けや児童の様子

いつも，タブレットをネットにつないだ状態にしておき，疑問の声に即座に対応出来るようにしておく。知りたいことは，何だろう，どんな物なんだろうと声に出させるようにする。その度にネット検索して画像や動画を見て確かめるようにすると，日常化する。

●本レシピのワンポイントアドバイス

児童の「〇〇って何，どんなの」の言葉にできる限り応えるようにすると，日常化して〇〇ってどんなの見てみたいと言うようになります。主に画像や動画で見せられるものに限る。言葉の意味は辞書で調べるようにさせる。

★実践memo

特別支援 図工科	単元（活動名）	動画で作品を作ろう	
	タブレット端末 活用の形態	1人1台	

●目的 ・ 動画の作品作りを楽しみ、創作活動を行う。

●利用する機能等
・ ジャストスマイルクラス2 「動画」

●活用の流れ

- ① ジャストスマイルクラス2の「動画」を起動する。
- ② 複数同じものを用意できそうな物を準備する。
（理科室にあるようなもの）物が増えていく様子を作品にすることを創作例をみて（事前につけておく）理解する。
- ③ 「新しく作る」→「カメラ」→「さつえい」→「使う」→「へん集」→「ペン」を基本に操作の仕方を覚え、物を増やしながらか撮影していき、作品にしていく。（ペンの書き込みは単純に「物の数」を書くことを基本にし、ほかにいろいろ工夫するようにしていった）
- ④ 「全体へ」で全体の作品の様子を確認する。
（「さいせい」で作品の仕上がり具合が確認ができる）できあがったら「ほぞん」をする。



③ 創作をしている様子



④ 作品全体の様子

●教師の働き掛けや児童の様子

はじめは基本的な流れを1つずつ大型テレビで提示しながら、創作をしていく。創作活動が起動ののってしまえば、特別支援の児童も自分でどんどん作っていく様子がみられた。1時間で作品作りが終わらなかった場合、「ほぞん」をし、続きを次の時間に作る。このような「動画」作りはふつうのPCでも可能だが、タブレットPCの良さは撮影に失敗した場合、すぐにやりなおして素材を手軽に作れることだと感じた。

●本レシピのワンポイントアドバイス

「音楽」でBGMを入れるなどをするとさらに楽しむことができる。「カメラ」のときに、「らく画」で動画を入れるも可能である。ただ、本実践は「だんだんと物が増えていく様子を作品にし、創作していく」ことをテーマとするので、手順を複雑にしていけない方が、児童の創作意欲がのっていく。必要最低限のことを教える方がよい。なおスマイルの「カード」でも似たようなことができる。（スライド的な作品作り）しかし本実践の内容では「動画」の方が児童の創作意欲がよい。ちなみに「動画」は「カード」よりも「途中で順番を入れ替える」といったことはやりにくいので、この実践の場合、創作は「物が1つ」から順番にきっちり作っていくので、「後で入れ替えを行う」といったことはあまりない。そのあたりは「特別支援の実践である」という特性もあると思われる。

★実践memo

特別支援 図画工作	単元（活動名）	折り紙で楽しもう	
	タブレット端末 活用の形態	1人1台	

- 目的
 - ・自分の折ってみたい作品を折り紙で折って楽しむ。
- 利用する機能等
 - ・インターネットサイト「かんたんおりがみ」
 - ・ <http://www.origami-club.com/easy/index.html>

●活用の流れ

- ①インターネットサイトの「かんたんおりがみ」にアクセスする。
- ②自分が作ってみたい折り紙の作品を自由にみる。作り方のアニメもみてよい。
- ③作ってみようと思うものが決まったら、実際に折り紙で折ってみる。作り方の参考にしているのは一覧になっているもの（折り図）でもアニメでもどちらでもよい。
- ④時間いっぱい、折り紙を作る。



①サイトのトップ画面



③折り紙を折っている様子

●教師の働き掛けや児童の様子

- ★タブレットPCを教室に持ち込んで活動を行ったことで、ふだんと同じ環境の中で落ち着いて行うことが可能になった。
- ★人数の少ない特別支援学級で行ったので、1人1台という活動が可能になった。
- ★折り紙でふだん作ることがあまりないようなすてきな作品を作り満足している子どもの様子がみられた。

●本レシピのワンポイントアドバイス

タブレットでのインターネット閲覧の注意

本実践で活用したサイトには広告が多数表示されている。タブレットPCのため、まちがってタップしてしまいがちなので、気をつけさせる必要がある。また、途中でインターネットのブラウザが動かなくなることもあった。その場合は、教師の方でタブレットPCに対応する必要がある。タスクバーを長押しし、タスクマネージャーを呼び出し、反応のないブラウザを選び、タスクを終了させて対応した。

★出典：おりがみくらぶ
<https://www.origami-club.com/>



通級指導 自立活動	単元（活動名）	発音指導（サ行音）	
	タブレット端末 活用の形態	1人1台	

●目的 ・ 「サ」のつく言葉の発音指導をしながら語彙を増やす。

●利用する機能等

- ・ パワーポイントで作成した視覚教材。
- ・ パワーポイントviewer
- ・ 無線LANアクセスポイント(SX-ND-4350WANPius)

●活用の流れ

- ①パワーポイントのアニメーションを用いて、「サ」のつく言葉を「画像」→「文字（漢字・ひらがな）」の順で画面に出てくるように作成する。
- ②最初に教師がタブレットパソコンを操作し、画像を提示する。
- ③児童はテレビ画面に映し出された「サ」のつく言葉は何か、画像と言葉をマッチングし、言葉を学習する。学習した言葉を正しい発音で言う。発音が正しくなかったら、言い直しや、Sインジケーターを使って発音修正をさせる。
- ④次に児童が教師役になり、タブレットパソコンを操作しながら問題を出す。教師は時々、わざと間違った発音で言い、正しく聞き取っていたか確認をする。
- ⑤教師が間違った発音をしたら、正しい発音で児童役の教師に正しい言い方を教える。



①教師がテレビに映して出題



②児童が教師役になって出題

●教師の働きかけや児童の様子

★本児童は、高音域にあるサ行音の子音の聞き取りが苦手であるため、日常会話におけるサ行音の発音がはっきりしないことがある。今までは児童と同じパソコン画面を見ながら指導をしていたために、口形や口腔内の舌の位置を確認することができなかった。今回は写真のように向かい合って取り組むことができるので、お互いに音声、口形、舌を確認しながら取り組むことができ、指導しやすくなった。

●本レシピのワンポイントアドバイス

学校配当のタブレットパソコンには、パワーポイントがインストールされていないので、パワーポイントで作成した教材を使うことができない。そこで、パワーポイントviewerをインストールし、他のパソコンで作成した教材をフリーメール添付を用いてタブレットパソコンに入れた。パワーポイントが学習発表活動にも応用できることを考えると、全てのタブレットパソコンにオフィスが使えるようになると良いと思う。

★実践した感想

各学年 音楽科	単元（活動名）	楽器練習における視覚化	
	タブレット端末 活用の形態	教師が活用	

●目的 ・ 楽器や演奏の様子などを大きく映し出し、児童の理解を支援する。

●利用する機能等

- ・ カメラ, Windows Media Player
- ・ ジャストスマイルクラス「マーカー」「くらべる」

●活用の流れ

●下学年向け

- ①用いる楽器(鍵盤ハーモニカ, リコーダー等)の全体がはっきりと映っている写真を撮影する。
- ②タブレットの画面をテレビに映し出し, テレビ画面上の楽器に指を置きながら説明する等, 児童の動きと同じ動きを示す。
- ③必要に応じて, 「マーカー」で, 基準となる位置等に, 画面上に印をつける。

●上学年向け

- ①優秀な児童の演奏の様子(指の動き等)を動画で撮影する。
- ②タブレットの画面をテレビに映し出し, 段階別練習等において, 必要な児童をテレビの前に集め, 真似させながら練習させる。
- ③必要に応じて, 「Windows Media Player」の再生速度変更機能を用いて, 速度を落として練習させる。



●教師の働き掛けや児童の様子

手元の楽器と同じものを見ながら練習できるため, 一斉指導で十分に習得できる児童の割合が増える。教えあいを促したり, より個別指導に重点を充てたりすることができる。

撮影する写真・動画は, 児童の手元の見え方に考慮し, 向きや角度を工夫して撮影するとよい。

●本レシピのワンポイントアドバイス

ジャストスマイルクラス「くらべる」を使うと, パート混合練習や, 複数グループに分かれての練習に応用することができる。パートごとの動画を, スタート位置を合わせて同時再生することで, それぞれの児童が自分の該当するパートの演奏を確認しながら, 同時に演奏することができる。また, 別々に再生することもできるので, タブレットの台数が少ない場合でも, 習熟度ごとのグループに1台ずつ渡して, それぞれのペースで練習させることができる。

★実践memo

4～6年生 体育	単元（活動名）	技を大きな動きで（マット運動）	
	タブレット端末 活用の形態	グループ1台	

●目的 ・側転や跳び前転などのマット運動の技を、大きな動きできれいにできるように練習する。

●利用する機能等

- ・カメラ
- ・カメラフォルダ

●活用の流れ

①NHK for school 「などのサイトで、側転のお手本フォームを見る。

②班でカメラ係を交代しながら、側転の様子を動画撮影する。

③自分の番が終わったらすぐに動画でフォームをチェックし、次の練習で気をつけるポイントを話し合う。

※マット運動だけでなく、跳び箱運動や鉄棒運動、高跳びなど、体育のどんな活動でも活用することができる。



①側転の様子を動画撮影



②班で、話し合っている様子

●教師の働き掛けや児童の様子

- ★ローテーションで、列の次の児童が撮影するようにさせた。
- ★「やっぱり足が曲がってる！」など、自分の様子を動画で見た児童は、練習ポイントが一目瞭然であったようだ。
- ★タブレットの操作に特に戸惑うことなく、教え合いながら使っていた。

●本レシピのワンポイントアドバイス

撮影してすぐに自分の動きをチェックする

カメラでの動画撮影が終わると、撮った動画は自動的に繰り返し再生される。これを生かして、撮影した児童と一緒に動画を見ながら、次の練習で気をつけることを話し合うことができる。さらに「ジャストスマイルクラス」の「くらべる」機能で、上手にできている友達の側転と見比べることも可能である。

★実践した感想